



TITLE:

ウロピリジンの使用経験 --ウロサイダルとの併用--

AUTHOR(S):

後藤, 薫; 日野, 豪; 杉山, 喜一; 粉川, 崔美

CITATION:

後藤, 薫 ...[et al]. ウロピリジンの使用経験 --ウロサイダルとの併用--. 泌尿器科紀要 1958, 4(11): 659-662

ISSUE DATE:

1958-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111678>

RIGHT:

〔泌尿紀要 4 卷11号〕
〔昭和33年11月〕

ウロピリジンの使用経験

—ウロサイダルとの併用—

京都大学医学部泌尿器科教室（主任 稲田 務教授）

助教授	後	藤	薫
助手	日	野	豪
副手	杉	山	喜一
副手	粉	川	崔美

A Clinical Analysis of Uropyrudin Tab.

(A Combination of Two Drugs, Sulfamethizole and 3-Phenyl-azo-2.6-diaminopyridin hydrochloride)

Kaoru GOTO, Takeshi HINO, Kiichi SUGIYAMA and Tsurumi KOKAWA

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director : Prof. T. Inada)*

Urinary tract infection in 9 patients was treated by administering orally a combination of two drugs, azo-dye-drug, 3-phenylazo-2.6-diaminopyridin hydrochloride and new sulfa drug, Sulfamethizole. Cures were achieved in all cases. Within hours after the initial dose of these two drugs symptoms of dysuria and frequency diminished. This is certainly more rapid than with the antibacterial drug alone.

Uropyrudin tab. only was given to 6 patients having irritative urinary tract symptoms. Results were highly satisfactory as it produced local analgesic effects within hours.

No toxic effects were noted in 13 patients treated therewith.

(We express our thanks to prof. Inada for his guidance and review)

緒 言

ウロサイダルは内服して完全に吸収され、尿中に略々 100% 回収され、アセチル化率は尿中に 10% 以下の低率な、抗菌力の強い、優れた特性を有するサルファ剤である。本剤の臨床効果については周知のものとなっており、著者等も既に報告した所である（泌尿紀要 3 巻 7 号、4 巻 2 号）

ウロピリジンは殺菌作用以外に、局所鎮痛消炎作用を有するアゾ色素剤である。

サルファ剤とアゾ色素剤の併用による臨床価値については、1941 年より Neter 等多くの研究が行われて来た。

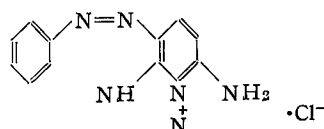
著者等はウロサイダル、ウロピリジンをエー

ザイ K K より入手して、これらを併せて尿路感染症の患者に使用した。又、尿路刺激症状と考えられる疾患にウロピリジン単独使用を行った。茲にこれらの臨床成績の概要を報告する。

薬 剤

ウロサイダルは既に報告しているので記述を省略する。

ウロピリジンは 3-フェニールアゾ-2,6-ジアミノピリジン塩酸塩で、その純品は黒赤色である。化学構造は下記の如くである。



ウロビリジンは尿中に速かに、且つ完全に排泄され、粘膜内にもよく浸透するアゾ色素化合物として尿路粘膜の麻痺作用、鎮痛作用、及び消炎作用を発揮する。

ウロビリジン錠は1錠中本剤50mgを含有する糖衣錠である。

臨床成績

著者等は、大腸菌に基づく尿路感染症9例に、ウロサイダル（以下UCと略す）とウロビリジン（以下UPと略す）を併用し、尿路刺激症状と考えられる疾患6例にウロビリジンを単独使用した。これらの臨床成績は附表に示す如くである。UC1日量は最初2gとし、これを3回分服投与を行つたが、後には1.5gに減量した。UP1日量は300mg（6錠）とし、これを3回分服投与を行つた。小児にはUC、UPとも減量した。これらの各症例に就て記述する。

〔第1例〕59才，♂，急性膀胱炎。

初診3日前より終末排尿痛，頻尿を来たすようになった。

尿は黄色中等度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（++），赤血球（+），大腸菌（++）を証明した。1日量UC2g，UP300mgを併用して3回分服投与を2日間行い，自覚症は全く消失したが，尿は軽度濁濁，沈渣に大腸菌（+少数）を証明した。更に2日間投与にて尿は清澄となり，大腸菌を証明しなくなった。

〔第2例〕41才，♀，急性膀胱炎。

初診7日前より排尿時不快感，頻尿を来たすようになった。

尿は黄色中等度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（++），赤血球（+），上皮細胞（+），大腸菌（+）を証明した。1日量UC2g，UP300mgを併用，3回分服投与を4日間行い，2日後には自覚症全く消失し，4日後には尿は清澄となり，大腸菌を証明しなくなった。

〔第3例〕46才，♀，急性膀胱炎。

初診4日前より頻尿，残尿感を来たすようになった。

尿は黄色軽度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（+），赤血球（+），大腸菌（++）を証明した。1日量UC2g，UP300mgを併用，3回分服投与を2日間行い，自覚症は消失したが，尿は軽度濁濁，沈渣に大腸菌（+少数）を証明した。更に2日間の投与にて尿は清澄となり，大腸菌を証明しなくなった。

〔第4例〕39才，♀，急性膀胱炎。

初診2日前より終末排尿痛，終末血尿，頻尿を来た

すようになった。

尿は黄褐色中等度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（++），赤血球（+），上皮細胞（+），大腸菌（+）を証明した。1日量UC1.5g，UP300mgを併用，3回分服投与を2日間行い，自覚症は投与翌日より消失し，2日後には尿は清澄となり大腸菌を証明しなくなった。更に2日間の投与を行つて治療を中止した。

〔第5例〕33才，♀，急性膀胱炎。

初診前日より終末排尿痛，終末血尿を来たすようになり，尿回数も増した。

尿は黄褐色中等度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（+），赤血球（++），大腸菌（+）を証明した。1日量UC1.5g，UP300mgを併用，3回分服投与を4日間行い，排尿痛は投与翌日より消失，4日後には尿は清澄となり大腸菌を証明しなくなった。

〔第6例〕21才，♀，急性膀胱炎。

初診4日前より頻尿，終末排尿痛を来たすようになった。

尿は黄色軽度濁濁，蛋白（-），沈渣に白血球（+），赤血球（-），上皮細胞（++），大腸菌（+）を証明した。1日量UC1.5g，UP300mgを併用，3回分服投与を4日間行い，自覚症は2日後に消失し，4日後には尿は清澄となり大腸菌を証明しなくなった。

〔第7例〕11才，♂，急性膀胱炎。

初診7日前より終末排尿痛，血尿，頻尿を来たすようになった。

尿は褐色中等度濁濁，蛋白（++），沈渣に赤血球（+++），白血球（+++），上皮細胞（+），大腸菌（++）を証明した。1日量UC1g，UP150mgを併用，3回分服4日間の投与を行い，4日後には自覚症は消失したが尿は軽度濁濁，白血球（+），赤血球（+），大腸菌（+減少）を証明した。更に3日間の投与を行い，尿は清澄となり大腸菌を証明しなくなった。

〔第8例〕63才，♂，前立腺肥大症，急性膀胱炎。

初診1年前頃より夜間頻尿，残尿感があつたが，最近昼間にも頻尿を来たし排尿痛を伴うようになった。

尿は黄褐色中等度濁濁，蛋白（+），沈渣に白血球（++），赤血球（+），上皮細胞（+），大腸菌（+）を証明した。1日量UC1.5g，UP300mgを併用，4日間投与を行い，2日後には排尿痛は消失，頻尿は軽減し，尿は軽度濁濁，大腸菌（+減少）となつた。4日後には頻尿は消失したが，残尿感は殆んど変化せず，尿は清澄，大腸菌を証明しなくなった。

〔第9例〕26才，♀，膀胱頸部炎。

初診20日前より終末排尿痛，残尿感，頻尿を来た

し、医師にサルファ剤の注射をうけていたが、自覚症にあまり変化がなかった。

尿は淡黄色中等度濁濁、蛋白(+)、沈渣に白血球(++)、赤血球(-)、上皮細胞(++)、大腸菌(++)を証明した。膀胱鏡検査にては膀胱頸部の軽度充血を認めるのみであった。1日量 UC 1.5 g, UP 300mg を併用、3回分服投与を4日間行い、残尿感、頻尿は消失したが軽度の排尿痛があり、尿は軽度濁濁、白血球(+), 大腸菌(+減少)を証明した。更に4日間の投与を行い、自覚症は消失し、尿は清澄となり大腸菌を証明しなくなった。

〔第10例〕 55才, ♂, 膀胱頸部炎。

生来頻尿の傾向があつたが、最近その程度をますますになった。

尿は黄色透明、蛋白(-)、沈渣に特別の処見を認めなかった。膀胱鏡検査にては膀胱頸部の軽度充血を認めた。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を4日間行い、自覚症は消失した。

〔第11例〕 32才, ♀, 膀胱三角部炎。

初診2月前より頻尿、膀胱部不快感、残尿感を来し、抗生剤、サルファ剤投与にて自覚症の改善をみられなかった。

尿は黄色透明、蛋白(-)、沈渣に上皮細胞を少数認めるのみであった。膀胱鏡検査にて膀胱三角部の軽度充血を認めた。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を7日間行い、自覚症は投与翌日より消失した。

〔第12例〕 38才, ♂, 膀胱三角部炎。

初診2月前より頻尿を来し、医師に膀胱炎の治療をうけたが自覚症は不変であつた。

尿は黄色透明、蛋白(-)、沈渣に病的処見をみなかった。膀胱鏡検査にて膀胱三角部の軽度充血のみを認めた。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を4日間行い、投与翌日より自覚症の消失をみた。

〔第13例〕 23才, ♂, 非淋菌性尿道炎。

初診50日前に淋疾に罹患し、ペニシリン注射にて治癒した。その後、頻尿、尿道不快感を来し、各種の治療をうけたが自覚症は不変であつた。

尿は黄色透明なるも第1杯尿に糸状の浮游物を認めた。沈渣に上皮細胞を認めるのみにて、淋菌を証明しなかった。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を4日間行い、自覚症は消失した。

〔第14例〕 38才, ♂, 非淋菌性尿道炎。

初診7日前より排尿時に尿道後部に疼痛を来すようになった。

尿は黄色透明、蛋白(-)、沈渣に白血球(+少

数)、赤血球(+少数)を認めた。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を4日間行い、4日後には自覚症は消失した。

〔第15例〕 45才, ♂, 膀胱鏡検査後の疼痛。

右尿管石にて膀胱鏡検査、逆行性腎盂撮影施行後、感染予防に UC のみ投与したが、検査後の翌日にも、排尿時の疼痛を訴えた。1日量 UP 300mg, 3回分服投与を2日間行い、投与当日夜より自覚症の消失をみた。

総 括

尿路感染症9例に UC, UP を併用した効果をみるに、9例とも著効の結果を得た。起炎菌はすべて大腸菌である。第1～3例は UC 1日量2g, 第4～9例は1.5g (小児の1例は1g) であるが、両者の間に効果の差はなかった。急性膀胱炎6例(第1～6例)は2～4日、平均3.7日で著効を得ており、自覚症は1～2日、平均1.7日で消失している。小児の1例(第7例)は少々長く7日間を要し、自覚症消失も4日間を要している。前立腺肥大症に合併せる急性膀胱炎1例(第8例)は4日間にて著効をみている。自覚症の残尿感のみ消失していないが、これは肥大症によるものである。膀胱頸部炎の1例(第9例)は発病後少々日時を経過しており、他の療法にて無効であつたものであるが、UC, UP 併用療法にて奏効したものであり、著効迄の日数は8日間を要した。

第9例の膀胱頸部炎は尿に変化なく、膀胱三角部炎2例も尿に特別の所見なく、自覚症を訴えたものであり、何れも UP 単独使用にて著効を得た。この3例は膀胱刺戟症状によると思われるものである。非淋菌性尿道炎は尿に変化が殆んどなく、UP にて著効を得ており尿道刺戟症状と考えられる。第15例は泌尿器科検査による尿道、膀胱の刺戟症状であり、これも UP にて著効を得た。

急性膀胱炎について、著者等のさきに報告せる UC 単独療法と比較すると著効迄の日数が、UC 単独では1日量2g にて4～8日を要しているが、UC, UP 併用では2～4日であり著明に短縮している。而も UP 1日量1.5g に減量してもその効果の減少することはなかった。

このことは UC, UP 併用による相乗作用が著明であることを示すものと考えらる。

又、尿路刺激症状によると思われる 6 例に対して自覚症の速かな消失をみたことは、UP の局所鎮静作用の優れていることを示すものである。

UP 単独、或は UC, UP 併用の何れにても副作用は 1 例も経験しなかつた。

結 語

アゾ色素剤ウロピリジンとサルファ剤ウロサ

イダルを併用して、尿路感染症 9 例に使用して、すべて著効を得た。著効迄の日数及び自覚症消失迄の日数は極めて短時日であつた。

尿路刺激症状によると思われる疾患 6 例に、ウロピリジン単独使用して、優れた局所鎮静効果を得た。

副作用は 1 例も認めなかつた。

(摺筆にのぞみ恩師稲田教授の御指導、御校閲に感謝する。)

附表 ウロピリジン使用症例の概要

註 UC…Urocydal
UP…Uropyridin

症例	年令	性	病 名	投与方法 (総量)	尿 鏡 検		自覚症消失 日(投与後)	菌消失日 (投与後)	効果
					前	後			
1	59	♂	急性膀胱炎	UC 2g } ×4日 (8g) UP 300mg }	大腸菌(++)	(-)	2日	4日	著効
2	41	♀	〃	〃	〃 (+)	(-)	〃	〃	〃
3	46	♀	〃	〃	〃 (++)	(-)	〃	〃	〃
4	39	♀	〃	UC 1.5g } ×4日 (6g) UP 300mg }	〃 (+)	(-)	1日	2日	〃
5	33	♀	〃	〃	〃 (+)	(-)	〃	4日	〃
6	21	♀	〃	〃	〃 (+)	(-)	2日	〃	〃
7	11	♂	〃	UC 1g } ×7日 (7g) UP 150mg }	〃 (++)	(-)	4日	7日	〃
8	63	♂	前立腺肥大症、 急性膀胱炎	UC 1.5g } ×4日 (6g) UP 300mg }	〃 (+)	(-)	〃	4日	〃
9	26	♀	膀胱頸部炎	UC 1.5g } ×8日 (12g) UP 300mg }	〃 (++)	(-)	8日	8日	〃
10	55	♂	〃	UP 300mg ×4日 (1,200mg)	〃 (-)	(-)	4日		〃
11	32	♀	膀胱三角部炎	UP 300mg ×7日 (2,100mg)	〃 (-)	(-)	1日		〃
12	38	♂	〃	UP 300mg ×4日 (1,200mg)	〃 (-)	(-)	1日		〃
13	23	♂	非淋菌性尿道炎	〃			4日		〃
14	38	♂	〃	〃			〃		〃
15	45	♂	膀胱鏡検査後の疼痛	UP 300mg ×2日 (600mg)			1日		〃